

## 〈研究の名称〉

非転位型大腿骨頸部骨折骨接合術、頸部短縮に関連する因子の検証  
～術後理学療法介入に着目～

## 〈研究の対象〉

2018年4月1日から2022年3月31日までの間に、旭川赤十字病院において、非転位型大腿骨頸部骨折と診断され、Hanson Pinlock を用いた骨折合術を受け、術後に理学療法を実施された患者さんが対象となります。

## 〈実施責任者および実施担当者〉

実施責任者：整形外科 医師 加茂 裕樹  
担当者：リハビリテーション 係長 高木 一人

## 〈研究期間〉

倫理委員会承認日～西暦 2026 年 11 月 30 日

## 〈研究の目的〉

当院、非転位型大腿骨頸部骨折（以下、非転位型）の骨接合術では、Hanson Pinlock を使用している。手術後は荷重制限なく、術後翌日より理学療法を開始し、患者個々の能力に応じて歩行手段を拡大している。非転位型では早期荷重・歩行が推奨されるが、頸部短縮を助長する可能性がある。これまで、頸部短縮においては、術式の影響が主に検討されているが、早期からの理学療法介入が与える影響を検討した報告は少ない。そこで、本研究では非転位型の骨接合術術後に対する頸部短縮の関連因子を、早期からの理学療法介入を含めて検証することを目的とする。

## 〈実施内容〉

### I. 研究デザイン

研究デザインは後ろ向き観察研究とする。

### II. 調査方法

2018年4月～2022年3月の間に、非転位型により骨接合術（Hanson Pinlock）を施行。術後より理学療法を開始した症例における術後の経過記録をカルテより抽出する。

### III. 調査項目

調査項目は以下のとおりとする。

基本情報：年齢、性別、Body Mass Index（BMI）、受傷前歩行能力

医学情報：Garden 分類（I 型・II 型）、橈骨遠位部より測定する Dual-energy X-ray absorptiometry（DEXA）法による Young Adult Mean（YAM）値、頸部短縮（短縮は 6 mm とする）の有無

身体機能：立位練習開始までの日数、平行棒内歩行練習・歩行車歩行練習・杖歩行練習・杖なし歩行練習の有無

日常生活動作能力：Functional Independence Measure（FIM）

#### IV. 解析

統計解析は、頸部短縮の有無を従属変数とし、全調査項目を独立変数とした方法とした。

##### 〈危険性・副作用など〉

本研究における調査項目は、平時から実施している大腿骨頸部骨折の術後症例に使用している評価・調査項目である。後方視的にカルテより情報を収集するため、個人が特定されないように個人情報には十分配慮を行うこと、また今回は、身体的侵襲による危険性・副作用はない。

##### 〈倫理上問題と考えられる事項〉

本研究の資金源はなく、個人的な資金提供や便宜が行われることはない。本研究で得られた情報については個人を識別することが出来ないように、個人情報は厳重に管理され、プライバシーは保護される。

##### 〈研究への参加について〉

本研究では、既存の診療情報を用いる後ろ向き観察研究であり、患者さんへの侵襲や介入はありません。そのため、個別に同意（インフォームド・コンセント）はいただいておりません。

なお、本研究への参加は任意です。本研究に参加されない場合でも、診療上の不利益を受けることは一切ありません。

##### 〈研究への不参加の申し出（オプトアウト）〉

ご自身の情報が本研究に使用されることを希望されない場合は、下記の連絡先までご連絡ください。

お申し出いただいた場合には、該当するデータを研究対象から除外いたします。

##### 〈問い合わせ先〉

〒070-8530 旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

リハビリテーション科 高木 一人

TEL：0166-22-8111

FAX：0166-24-4648